



ソウタ、子どもで初参戦初優勝!

梅雨の合間の晴れ間がのぞいた6月12日(日)練馬区立電車の見える公園で、第十五期練板オープンが開かれ、初登場高円寺ソウタが、決勝でギャオじいを破り、初参戦初優勝を飾った。昨年のゆりちゃんに続く子どもの優勝で、練板オープンはベテランが苦戦する展開になってきた。もちろん、子ども王はソウタ、女流王は該当者がいなかった。

マックス予選落ちで5ヶ月連続優勝ならず

グラチャンに始まり、ベー王、NIB ピック、トライアスロンと、立て続けに優勝を飾ってきたマックスが、家の用事で会場入りが遅くなり、十分な加工時間が取れず、惜しくも予選落ちで連続優勝が途絶えた。『決勝トーナメントでやっつけたかったのにな』との声も聴かれたが、まずはこれでよしとしておこう。どこかで、ほかのみんなは何をやってるんだ、などと言われかねないからだ。

その予選でソウタと奥田パパが同点でトップ通過、以下小出っち、松ちゃん、鉄人後藤、岩坊、中 G、グレートひで、岡ちゃん、ほん魂六角、ハルク、ちち平井、とーさん成田、イッサ望月の14名がスナリ決勝トーナメント進出を決める。残るは二枠、このワイルドカードをめぐり、大工アベ、平井おやぢ、ソウタパパ、ギャオじいによる4人同時入場で、まずはギャオじいが勝ち上がり、次いで大工アベが最後の枠を勝ち取り、顔ぶれがそろった。

ギャオじい、オカマ負けで一発退場! (*^▽^*) ^{ガハ!}

準決勝に進んだ松ちゃんがつぶやく。『岡ちゃんとソウタなら、ソウタが嫌だな』案の定、結果はそうなり、ソウタにストレート負けした松ちゃんは、決勝戦を前に姿を消す。一方、世間に疎いギャオじいは、ソウタが何ぼのモンかも知らない。誰が相手であれ、マイペースで戦うだけだ。儲けもんのワイルドカードで決勝トーナメントに間に合い、おまけに奥田パパ、ほん魂六角、イッサ望月を退け、久々の決勝戦を前に心が弾んでいた。相手は予選トップとはいえ、所詮子どもだ。目に物を見せてくれよう。その心の余裕が結果となり、とんとん拍子に2連勝し、優勝に王手をかける。さあ、残るはあと一勝、そうすれば3年振りのタイトルに手が届く。ギャオじいは勝った時のポーズを思案していた。



ソウタ おめでとう!



と、そこに落とし穴が。手元が狂い床外しだ。いかん、いかん、焦りは禁物だ。慎重に、慎重に、二つのうち一つ勝てばいいんだから。その気持ちがペーに乗り移り、真ん中ドンに近い床入れとなる。するとどうだろう、あろうことかペーが立ってしまったではないか。これはまずい。イヤな展開だ。真ん中でどっしり構えたソウタペーが、ギャオじいペーをバチバチたたく。頼りなく弾かれるギャオじいペー。するとどうしたことで、ギャオじいペーがひっくり返ってしまったではないか。オカマ負けだ。『決勝トーナメントでオカマ負けなんて、一発退場だ』まさか、このルールで第一号に自分になるとは。世紀の一瞬に会場がどよめく。『やっぱりそうなると思ったんだよ』会場のあちらこちらで声が飛ぶ。『最高の負け方よ。さすがのキャラクターだわ』そんな称赞なんていない、オレはタイトルが欲しかったんだ。ギャオじいペーは、しばし呆然として言葉もない。スピード重視で頭が重いペーは不安定さが同居する。まあ、でもこれはオレの流儀、それで負けたんだから仕方がない。それにしても逃した魚は大きかった。久しぶりのチャンスだったのに。でも、みんな喜んでくれたし、そう思えば目出度し目出度しかな。ギャオじいペーは、このショックを引きずることだけを怖れていた。



やっと来ました。中Gがガチホン初優勝

お待たせしました。ペーゴマ界のレジェンド、ご存知中Gがガチホンで初の全部取りに成功しました。やってもやっても優勝できない中Gは、ついに恥も外聞もかなぐり捨て、ただ、ただ、勝ちた〜一心で作ったペーはこの通り（写真参照）。きれいな八角擦りの中島流のこだわりなどはもはやありません。ギリギリまで低くし、三段階に擦った角は、城壁のような厚み。鬼角でも潜り込めない「究極の待ちペー」の前に、ほん魂六角、ちち平井、ルパンが次々倒れ、最後の砦の松ちゃんさえ弾き飛ばされました。そして出ました、この笑顔。でもこのペー、35g制限にはパスしたけれど、どう見ても角六タイプには見えないなあ。

